

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2015.12) 平成26年度:59.

術後訪問を受けた術後補助化学療法予定患者の思いと術後訪問が与える影響

畠山 美南、和田 絵里佳、種田 詩織、本間 敦

# 術後訪問を受けた術後補助化学療法予定患者の思いと術後訪問が与える影響

旭川医科大学病院 手術部ナースステーション

○畠山 美南、和田絵里佳、種田 詩織、本間 敦

## 【はじめに】

術後訪問は術中看護実践の評価を目的とし実施しているが、術後訪問を受けた患者の思いに関する研究は少ない。術後訪問を受けた患者の思いを調査し、術後訪問が今後の治療に対する意欲や関心に与える影響について明らかにするため、本研究を行った。

## 【研究目的】

1. 術後患者が術後訪問に対してどのように捉えているのかを明らかにする。2. 術後に新たな治療が予定されている患者の治療に対する意欲や関心に術後訪問が与える影響について明らかにする。

## 【研究方法】

A 病院倫理委員会の承認を得た後、対象者に研究の趣旨、プライバシーの保護などを口頭と紙面で説明し同意書をもって承諾を得た。また、本研究の拒否、途中辞退しても不利益がないことを保証した。1. 対象：当院で手術を受ける患者で術後に補助化学療法を行う可能性がある患者 9 名 2. 研究方法：1) 対象患者 1 名につき研究者 1 名が外回り看護および術前・術後訪問を一貫して行った。術後訪問は術後 2～6 日目に行った。2) インタビューガイドを作成し半構成的面接法を用いてインタビューを行った。3) KJ 法を用いて分析した。

## 【結果・考察】

対象者の語りから、120 個のコードが抽出され、25 個のサブカテゴリー、11 個のカテゴリーに分類した。対象者は手術の体験を多く語り、今後の治療に対して前向きな発言をしていた。患者は自らの体験を語ることでその体験を成功体験と認識することができる。一般的に、一つの行動を達成できたという成功体験は、次の機会にもうまく対処することができるという自己効力感を高める。したがって、術後患者が成功体験によって今後の治療など次の脅威を乗り越える際にも、その状況に自分はいまうまく対処することができるという自信を持ち前向きに考えられると推測する。今回の研究においては対象者の、手術という脅威を乗り越えた経験が成功体験となり、次の治療へと前向きに進むための一助となっていたと考える。患者が自身の経験を成功体験と認識するためには、その体験を語る場を提供する必要がある。今回の研究では、体験を語る場というのが術後訪問であったと考える。つまり、これまで看護の評価を目的としていた術後訪問は、患者が体験を語る場としての側面を持っていると言える。

## 【結論】

1. 術後訪問は患者が体験を語る場として、患者にとっても必要である。
2. 術後訪問は患者が今後の治療に前向きになるための一助となる。